

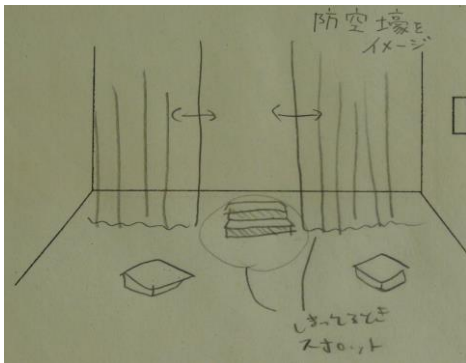
富山いずみ高等学校

渋谷でもらった不思議な木の実のはなし

作：加藤のりや

◇概要◇

女子高校生ルナが、昭和20年にタイムスリップ。渋谷で会った占い師がくれた不思議な実が結んだ、時代を超えた友情と固い絆の物語。日々を無目的に退屈に過ごすルナが、戦争の真っ只中で同じ年齢のタケに出会い、初めて「生きていること」の意味に気づく。切なくて苦しい、けれど大切な何かに心動かされる物語です。（出典 びぶ屋台本堂）



◇メッセージカードより◇

- ・ルナ役の方表現豊かで見ていて本当に引き込まれました。タケちゃん役の方おちついた雰囲気合っていて演技力も素晴らしいです！泣きました！！
- ・戦争をテーマにした話でルナちゃんとたけちゃんの絆がとっても良かったです！！演劇でウルっときたのは本当に久しぶりで「よかった～！」と余韻にひたっていました。



・ホリゾンライトのカラーも、爆弾が落ちてくる時や、平成に戻ったときの空のカラーの色も昭和と平成のギャップがあって良かったです。

◇楽屋インタビュー◇

Q1. なぜこの脚本を演じようと思ったのでしょうか？

A. この脚本は夏休みの前からたくさん探したうちのひとつで、その中でいいと思ったものです。心が揺さぶられた脚本がこれでした。一番の決め手はルナとオタケの友情です。

Q2. 衣装のこだわりはなんですか？

A. 占い師と予測師は姉妹なので、似たデザインの衣装で姉妹感を演出しました。また、戦争の歴史をもとに、本で調べて頭巾や国民服を再現しました。

Q3. 動きの大きな演技をするための練習は？

A. 脚本を読んだときに、できるだけ動ける部分を探して、動きをつけています。また、普段の練習で使うステージは小さいので、普段から大きく動こうと意識しています。



【速報担当】佐々木祐実 石井里奈（藤島）

※ 富山いずみ高等学校のみなさん お疲れ様でした！！